

# 教育旅行の受入に関するアンケート調査結果

## <調査の目的>

農林漁業体験型教育旅行受入における取組の状況等を調査し、受入の実態や課題等を把握することで、今後の適確な支援につなげることを目的に実施。

## <調査の概要>

①調査対象：教育旅行の受入調整を行っているコーディネート団体

②調査時期：令和3年11月

## I 本年度の受入について

### 問1 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）はございましたか。

① ある  団体 （ 20% ）

受入学校数 5 校 受入生徒数 297 人

② ない  団体 （ 80% ）

### 問2 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）はございましたか。

① ある  団体 （ 40% ）

受入学校数 12 校 受入生徒数 2,140 人

（ファームヴィジットのうち農家以外への宿泊の状況）

受入学校数 5 校 受入生徒数 502 人

② ない  団体 （ 60% ）

### 問3 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）のキャンセル数について記載してください。

受入学校数 61 校 受入生徒数 10,398 人

### 問4 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）のキャンセル数について記載してください。

受入学校数 20 校 受入生徒数 2,883 人

問5 本年度の受入に関する対応について記載してください。

ファームステイでは、受入れが難しい旨を、1月～2月までに旅行会社に伝え、学校への判断をお願いしました。ほとんどの旅行会社・学校が近郊での方面変更になりました。ビジットでお願いされた所は、そのまま受け入れとなりました。受入農家さんが希望件数集まらず大変でした。

緊急事態宣言が出たり、まん延防止等重点措置期間が延長されたりと受け入れ期間と被ることが多く、受け入れも延期延期の末キャンセルになった学校があった。その他、当初の予定では他の地域に行く予定だったが近場での受け入れ希望ということで当地域に変更になった学校もあった。

民泊においては道内の中学校のみの受入れ。日帰り体験は7月に1校、10月、11月に残り6校（関西のみ）を受入れ。〇〇町は変わらず修学旅行生の受入れ不可とのことで漁業体験は実施なし。

「新型コロナウイルス感染症拡大防止対応ガイドライン」に則り対応。

前年度よりとくにファームステイにおいては、コロナ禍における代替としてホテル等に宿泊し日帰り体験として農家へ出向く形でのファームステイ体験の受け入れを予定していたが、緊急事態に伴い学校の判断で方面変更（実質北海道への旅行の取りやめ）や中止となってしまうことから、受け入れの調整まで至らなかった。

新型コロナウイルス拡大の影響により学校側より教育旅行中止の申し出があった。

ほとんどが、学校側よりキャンセルのご連絡をいただきました。

## II 来年度の受入について

問1 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）の予定（予約）はございますか。

① ある  団体 ( 80% )

受入学校数 52 校 受入生徒数 8,337 人

② ない  団体 ( 0% )

③ 無回答  ( 20% )

問2 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）の予定（予約）はございましたか。

① ある  団体 （ 40% ）

受入学校数 24 校 受入生徒数 5,302 人

② ない  団体 （ 40% ）

③無回答  （ 20% ）

問3 来年度以降の受入に関する対応について現時点の御予定などを記載してください。

現時点では、予定通り受入れをする予定で進めています。これからの事は、各地区事務局・受入農家さんに確認して、進めていこうと考えています。

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、受入を中止する場合もある。

当初、〇〇町受入れの学校が〇〇町の受入れ数減少に伴い、隣町の当市での連携受入れとなっている。

民泊の受入れキャパに関しては未知数。この冬のコロナの状況で大きく左右に変動の可能性あり。現時点では実施できても最高160名程度の見込み。漁業体験においては来年の実施も〇〇町と〇〇町漁業組合の編成により変動される為、現時点では実施不可。民泊のキャパオーバー校に関しては日帰り体験への変更で随時ご案内、ご提案中。

「新型コロナウイルス感染症拡大防止対応ガイドライン」に則り、励行していく。

とくにファームステイにおいては現在提案しているホテル宿泊＋日帰り体験のパターンでの受け入れでの代替え案で実施する場合あり。

通常どおりの受入を予定。ただし、消毒や検温等の感染予防対策は引き続き行う予定。

役員会では、来年度の受け入れについて協議を重ねておりますが、来年1月に全体の会議を開いて、対応を決定する予定でおります。

問4 ワクチン接種など状況が変化中、ウィズコロナを見据えた今後の受入において、学校や旅行会社の申込みや問合せで新たな要望や変化がございましたら、記載してください。

今の所、変化はない様に見えます。

コロナ対策への質問が多くある。

学校や旅行会社からは、ファームステイをしたいという問合せや要望がほとんど。コロナ禍ではあるものの、農村体験やファームステイという農家との交流や食や生きる力を育む教育力という点では、このような農村生活体験の要望はなくなるのではないかと思います。

問5 今後の教育旅行の受入について、新たに検討している受入手法がございましたら、概要を記載してください。

ファームステイは受入農家の高齢化や受入れに伴う負担が大きくなってきているため、ファームヴィジットもしくはコース別選択体験へのシフト変更の提案をしていく予定。

上記要望を汲んで、コロナ禍において受け入れが厳しい状況であるので、ただ単に農村体験をおこなうということではなく、SDG s 的な要素を入れ農家だけではなく農業関係者や農業関連施設に携わる方など、農村地域の関係者と連携した新たな受け入れ方法の展開などを検討。

### III 新型コロナウイルス感染拡大予防に向けた基本的な取組等について

問1 「教育旅行民泊の受入家庭（農家）による基本的な感染予防策」は作成されましたか。

- |          |                                   |           |
|----------|-----------------------------------|-----------|
| ① 作成済み   | <input type="text" value="3"/> 団体 | ( 37.5% ) |
| ② 作成予定   | <input type="text" value="3"/> 団体 | ( 37.5% ) |
| ③ 作成予定なし | <input type="text" value="2"/> 団体 | ( 25% )   |
| ④ 無回答    | <input type="text" value="2"/> 団体 | ( 20% )   |

問2 「感染のリスク評価」を行いましたか。また、その結果はいかがでしたか。

- |         |                                   |           |
|---------|-----------------------------------|-----------|
| ① 実施済み  | <input type="text" value="1"/> 団体 | ( 12.5% ) |
| ② 実施予定  | <input type="text" value="1"/> 団体 | ( 12.5% ) |
| ③ 実施しない | <input type="text" value="6"/> 団体 | ( 75% )   |
| ④ 無回答   | <input type="text" value="2"/> 団体 | ( 20% )   |

問3 感染拡大予防の取組や関連する業種別ガイドラインについて、本道の教育

旅行民泊の実態から特に実施が難しいと感じる取組はありますか。

① ある  団体 ( 30% )

(難しいと感じる取組を具体的に記載してください。)

ファームステイは共同調理が基本となるため、一人一人分けてということが難しい。また、受入家族との団欒もファームステイをする意味合いでもあるため、難しい部分はあると感じた。

受入側のガイドラインの問題よりも教育現場のガイドラインに問題があると感じました。本年度においては緊急事態宣言下でも大阪府ならびに大阪市の修学旅行実施許可の発令により、北海道への修学旅行を実施しようとした学校が多々ありました。また、大阪府は学校での感染者も相当数いらしたようで、こちら側のガイドラインや対応に対し、軽視する学校や学校での感染予防対策が安易な学校が多く見受けられました。受入れ側の問題ではなく、実施もとの教育現場の対応に不安を感じました。

昨年度と同じ内容になるが、ガイドラインは感染リスク軽減には重要ではあるが、すべてを実施することは普段農業をしながらそこで生活をしている農家にとっては、家族ぐるみでそれを実施するには現実的に難しいことが多く、農家が理解し積極的に受け入れをおこなうにはハードルが高い。

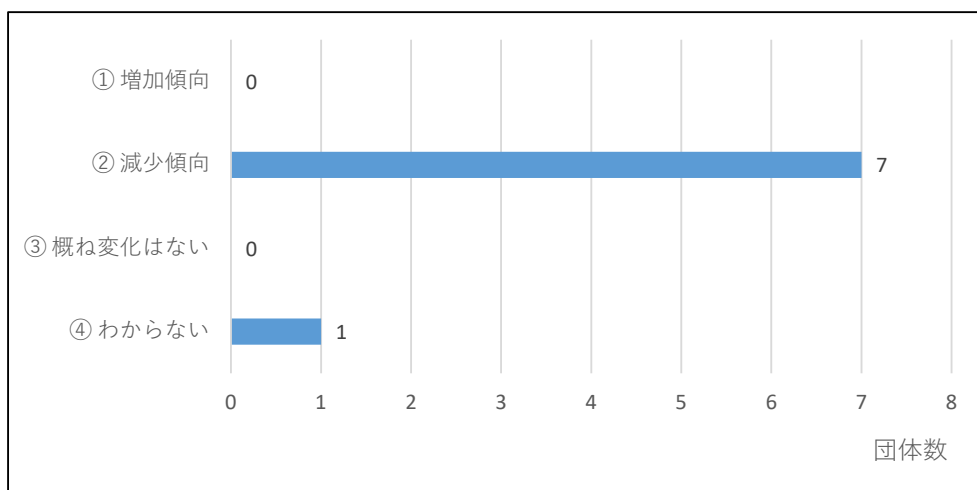
② ない  団体 ( 40% )

③ 無回答  団体 ( 30% )

## IV 受入農家（漁家）について

問1 近年（ここ2～3年程度）の受入農家（漁家）の状況について変化はありましたか。

- ① 増加傾向  団体 ( 0% )
- ② 減少傾向  団体 ( 87.5% )
- ③ 概ね変化はない  団体 ( 0% )
- ④ わからない  団体 ( 12.5% )
- ⑤ 無回答  団体 ( 20% )

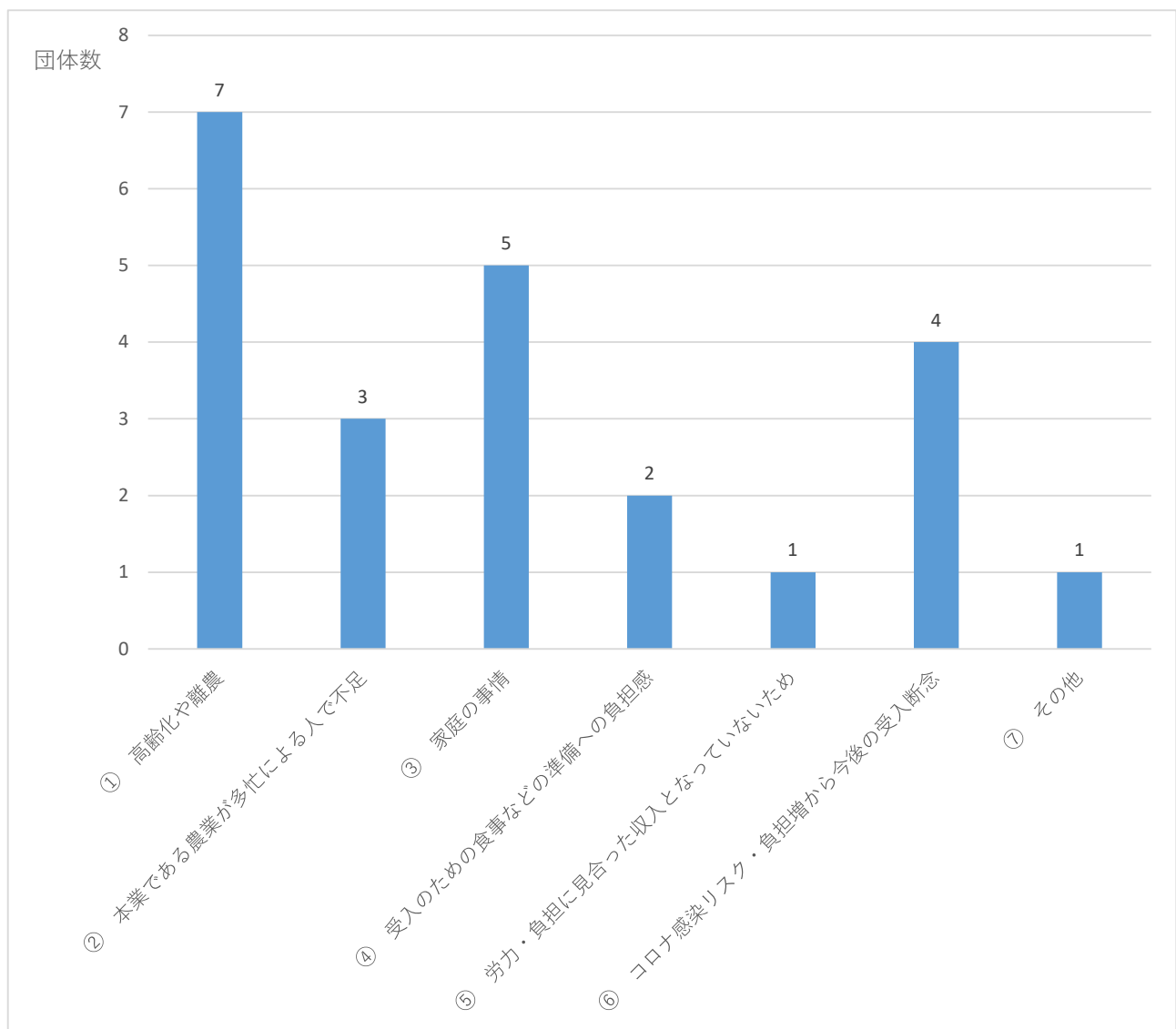


(問2へ)

問2 【1で②減少傾向を回答された方のみ】減少傾向の要因として該当するものを選択してください（複数選択可能）。

① 高齢化や離農	7 ( 30.4% )
② 本業である農業が多忙による人で不足	3 ( 13% )
③ 家庭の事情	5 ( 21.7% )
④ 受入のための食事などの準備への負担感	2 ( 8.7% )
⑤ 労力・負担に見合った収入となっていないため	1 ( 4.3% )
⑥ コロナ感染リスク・負担増から今後の受入断念(一時的な休止は除く)	4 ( 17.4% )
⑦ その他(その他の要因がある場合は下記に記入してください)	1 ( 4.3% )

減少ではないが、宿泊は、受入れ不可。日帰りで有れば受入れ可能との農家さんも増えている。



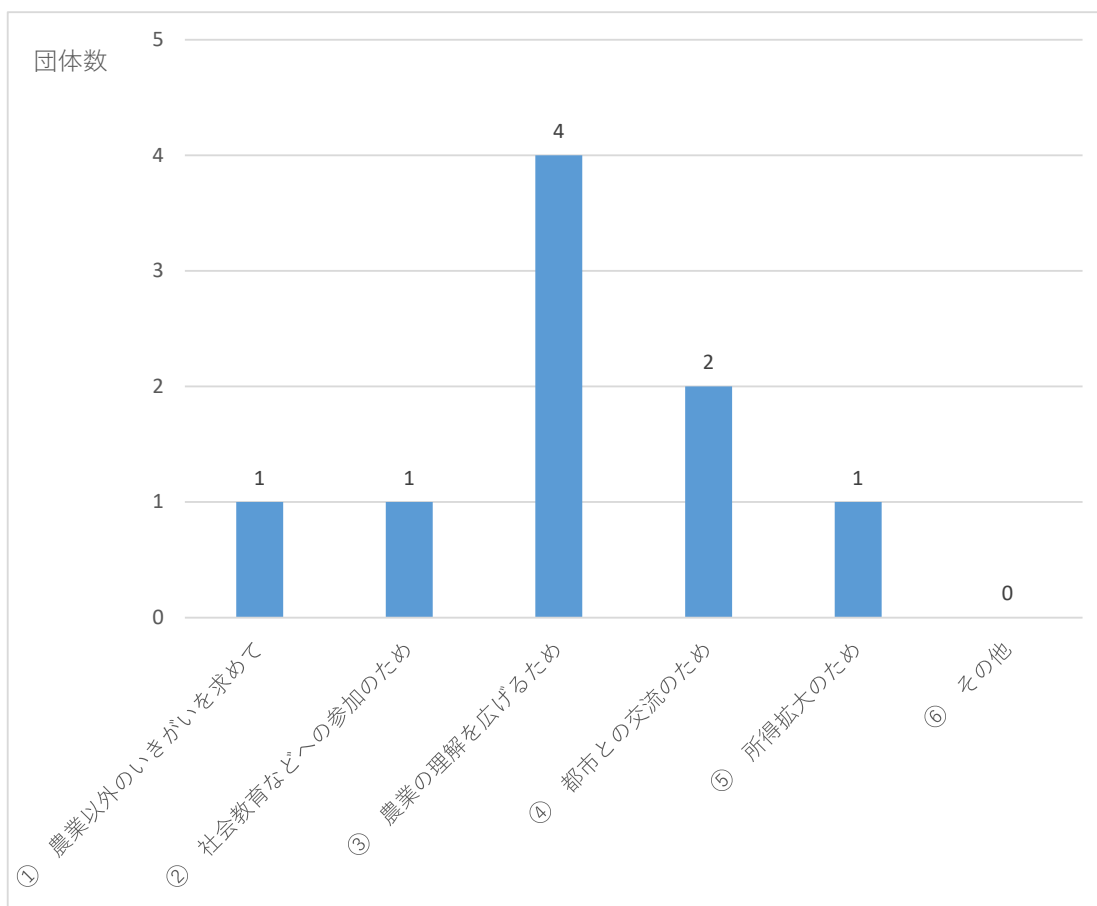
問3 近年（ここ2～3年）、新たに受入を始めた農家はいますか。

- ① いる  団体 （ 87.5% ）
- ② いない  団体 （ 37.5% ）
- ③ わからない  団体 （ 0% ）

問4 【3で①いるを回答された方のみ】新たに受入を始めた農家が、受入を決めた理由と思われるものを選択してください（複数選択可能）。

① 農業以外のいきがいを求めて	1	（ 11.1% ）
② 社会教育などへの参加のため	1	（ 11.1% ）
③ 農業の理解を広げるため	4	（ 44.4% ）
④ 都市との交流のため	2	（ 22.2% ）
⑤ 所得拡大のため	1	（ 11.1% ）
⑥ その他（その他の要因がある場合は下記に記入してください）	0	（ 0% ）

受入を通して、少しでも自分たちが実施している地域のことを知ってもらいたい。また受け入れをおこなうことで、同じ考えや農家同士のつながりなど地域内の横のつながりを強くしていきたい。





問5 受入農家を増やしていく（維持していく）ための手法として効果的と考えられるものを選択してください（複数選択可能）。

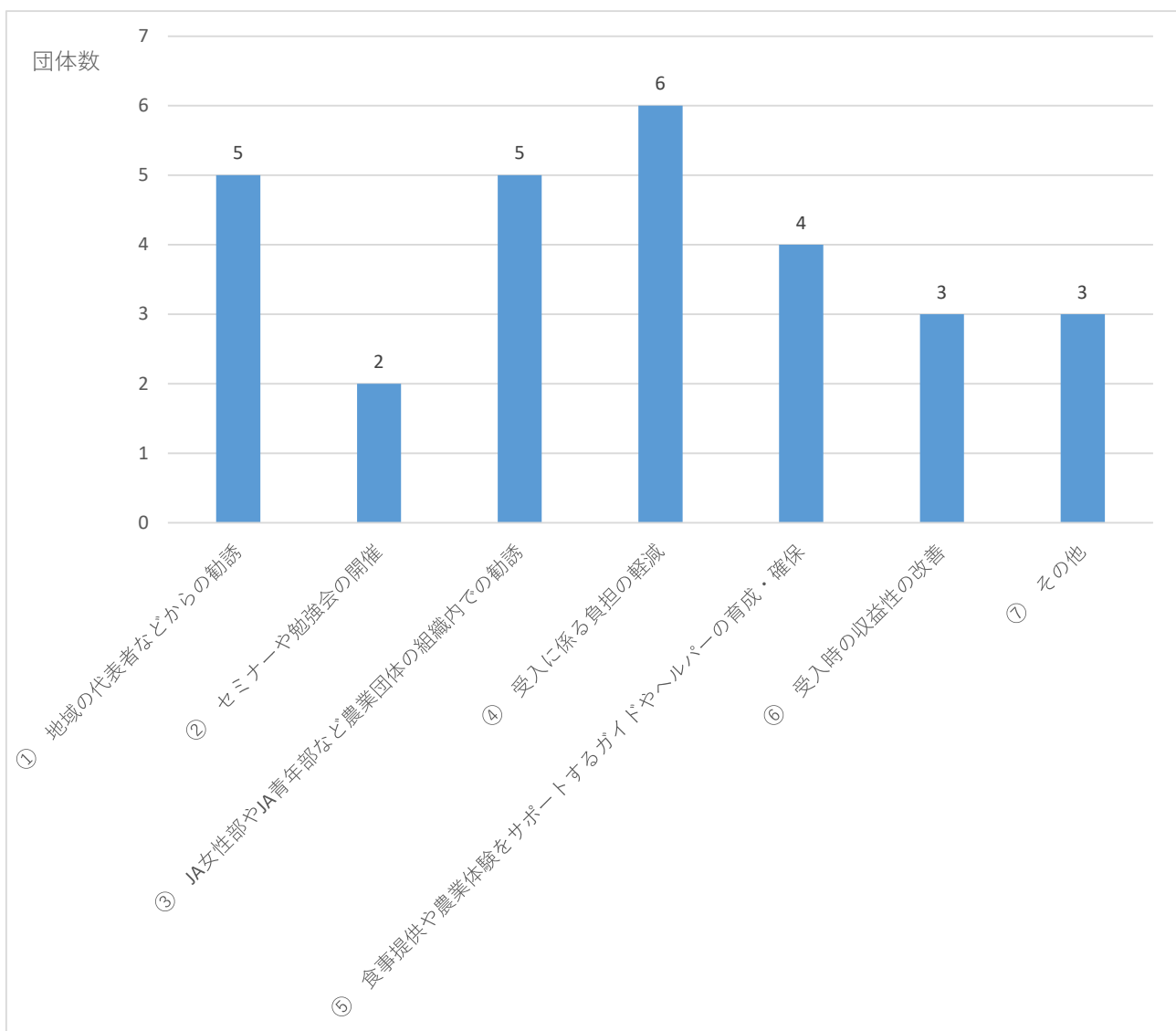
① 地域の代表者などからの勧誘	5 ( 17.9% )
② セミナーや勉強会の開催	2 ( 8.7% )
③ JA女性部やJA青年部など農業団体の組織内での勧誘	5 ( 21.7% )
④ 受入に係る負担の軽減	6 ( 26.1% )
⑤ 食事提供や農業体験をサポートするガイドやヘルパーの育成・確保	4 ( 17.4% )
⑥ 受入時の収益性の改善（受入人数の拡大や経費縮減方法の確立等）	3 ( 13% )
⑦ その他（その他の手法等を下記に記入してください）	3 ( 13% )

弊社との信頼関係と業務のサポート体制への理解、料金および収益への理解

維持：交流会等開催

増やす：戸別訪問による勧誘、負担軽減→宿泊家庭と体験家庭を分担

個別推進（直接対話）



問 情報交換会において、お聞きになりたい情報、他のコーディネーター団体と情報

交換したい内容について下記の区分により記載してください。

行政	受入農家について状況を伺いたい
	補助や助成。あらためて教育旅行における農村体験等の位置付け等
	教育旅行説明会・相談会の道内開催（夏期or秋期）を要望いたします。教育旅行農泊を希望する学校の今後の来道動向についてお聞きしたい。
	行政は実施について、積極的ですか。消極的ですか。
旅行団体	受入れる側への要望は何かあるか。学校から言われていることはあるか。
	ファームステイはまだ需要は大きいのか
	受け入れ未地域への行程の提案
	教育旅行農泊の可能性がある学校の今後の来道動向についてお聞きしたい。誘致先に選んでもらえるには何が必要かお聞きしたい。
	受け入れの変更、中止になった場合に、トラブルはありませんでしたか。
情報交換	現在の状況と、今後の方向性など。SDGsに関わる取組など、各団体が有れば教えて欲しいです。その他、団体同士で協力し受入れする事が出来ないか等。
	コロナ禍で、受け入れ人数に変更（1施設の宿泊人数を減らしたなど）があったか。
	コロナ禍における受け入れ方法や新たな展開等
	多数の受入農家さんと連携されている団体様にお聞きしたい。今後の受入について各農家さんの声は？
	受入家庭の方から、どのようなご意見がありますか。